

# 労山全国連盟 メールニュース

発行：日本勤労者山岳連盟 メディア局

2014年8月13日 第8号

---

## ▲△1：「福島の子供たちと夏休み」(8/1～4)が大成功 子どもたちは、のびのびと4日間を過ごす

---

労山全国女性委員会（藤元理津子委員長）は、福島第一原発に近く、ふだん外でのびのびと遊べない福島県・南相馬市の小学生21人を招待して、長野県・小谷（おたり）村の自然のなか遊ばせる「福島の子供たちと夏休み」のイベントを8月1日～4日に開催し、大成功裏に終了しました。

このイベントは、女性委員会が一昨年から構想していたもので、南相馬市にあるNPO団体「南相馬こどものつばさ」と協力して参加者を募集。とても人気があり、第1回目の締切で予定人数が集まってしまいました。南相馬市から信州・小谷村までは専用マイクロバスで送迎。それを、全国女性委員会を始め、福島、長野、そして関東各県の会員の皆さん（男女を問わない）そして現地のボランティアスタッフも含め、40名以上が支援しました。初日は小谷山荘で温泉に入り、夜は雨だったのでホテル鑑賞は3日目に延期、2日目はお弁当を持って柵池自然公園等を軽くハイキング、子供たちは北アルプスの白馬の大雪渓をみてその雄大な景色に感嘆することしきりでした。3日目は白馬自然体験村でのいかだ乗りと川遊び、夕食は外でのバーベキュー、火起こし体験もおこなうなど満喫した4日間でした。

このイベントを開催するにあたっては、南相馬市の保護者達との信頼構築や、長野県の現地の各機関との折衝など、取り組みが進むにつれて予想を超える大変な準備が必要となり、多数のボランティアの皆様にご協力いただき、ほんとうに助かりました。また、取り組み成功にむけてカンパを寄せていただいた全国の皆さん、ご支援、ご協力、ありがとうございました。

### ※「南相馬こどものつばさ」について

東日本大震災による原発事故発生後、南相馬市内の子どもたちは、放射能の影響により戸外での活動制限が続いていた。心身ともに不自由な暮らしにおかれた子どもたちを解放したいと、市内小中学校PTA連絡協議会のメンバーを中心にした保護者と夏休み期間に子どもたちを県外で受け入れたいという市外の支援者が手を結び、より多くの市内の子どもたちに、放射能の心配のない環境で過ごす時間を作ろうと2011年6月に設立。林間・臨海学校を提供する活動を行っている。

ふりかえり思い出カード

No.8

名まえ

8月1日(金)

今日はマイクロバスに乗って長野に来ました。子ども  
のつばさに行きたいと思っていて、友達とドキドキ  
ワクワクしながら来ました。これから楽しく活  
動したいと思います。

8月3日(日)

今日は川遊びをしました。川ではさいしょはつめ  
たくてなれなかったけど、おなかゴロゴロし  
ていたのをたしもしました。大人のガイド  
さんにも泳を掛けてたくさん遊べました。楽しか  
たです。

8月2日(土)

今日は2組の山登りをしました。そべんに行くまで  
2組下がるので合わせて4組でした。わたしは山登り  
をするのははじめてだったのでくっかれました。  
つかれたけど、きれいな景色を見れたのでよかったです。  
足もすくすくいたくなりました。すくすくいたい  
のははじめてでびっくりしました。

8月4日(月)

今日は4日の子どものつばさが終わりで、  
福島までバスで帰るの時間をはかると、おせい  
集会の人たちにたくさんやさしくしてもらってうれし  
かったです。いろいろなことがはじめてだったので、  
ゆめワクワクして遊べてよかったです。また長野  
に行きたいです。

参加した子どもたちから一人1通ずつ感想文が寄せられた。これは、  
そのなかの1通。楽しかった様子がうかがえますね。

## ▲△2：「2015年労山カレンダー」選考終わる。

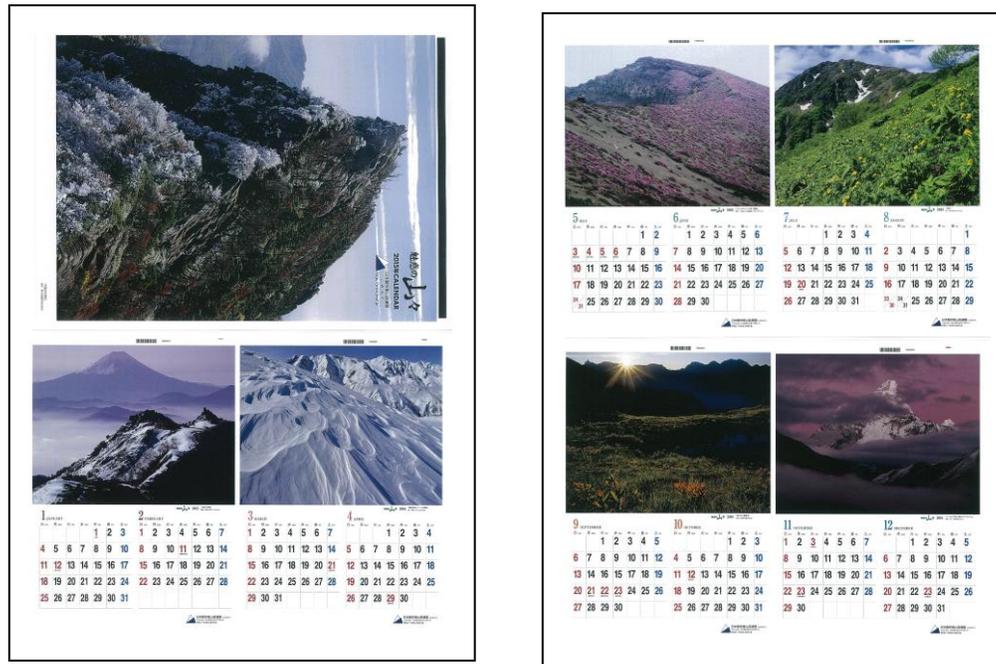
名入れ申し込み 受付中

2015年の労山カレンダーを飾る作品の審査が7月末に行われ、応募作品113点から7点の作品が  
選ばれました。今年のお募は常連や新規も含め会員21名から参加がありました。当選作品は以  
下のお通りです。おめでとうございます。

表紙	石鎚山の霧氷	松村 哲	高知勤労者山岳会 (高知)
1月～2月	浅春の雪稜	藤瀬 親実	かざこし山の会 (長野)
3月～4月	風雪収まりて・八方尾根	岡 孝雄	プリムラ山の会 (東京)
5月～6月	ミヤマキリシマと高千穂峰	梅木千鶴子	人吉球磨HC (熊本)
7月～8月	北岳	嶋 和男	野火止山の会 (東京)
9月～10月	明けゆく播隆平	大関 康史	東海山岳会 (愛知)

11月～12月 モンラから望む夕暮れのアマダブラム 平野 恭一 西神戸山の会（兵庫）

価格は例年どおりで、名入れは20部～49部は版代2000円、50部以上は無料です。名入り希望の団体はできるかぎり8月中に申込用紙に記入し、全国連盟事務局までお申し込みください。



---

### ▲△3：労山会員証を更新します

---

今年の年末(2014年12月31日)で有効期限が切れる労山会員証(JWAF Membership Card)をお持ちの方も多と思います。これについて、一括更新発行を次の手順で実施します。

**9月** 各加盟団体(会・クラブ)に、現在、会員登録されている会員名簿を全国連盟事務局から郵送

**10月末まで** 各加盟団体より、名簿にチェックをいれて返送(郵送、FAX、メール)

**11月** 各加盟団体に新しいカードを送付

※期限切れのカードは各団体で廃棄処分してください

※新入会された方のカード期限は2014年12月31日より先の日付になっていますが、これも一括して更新します。まだ有効期限が残っているカードは、各団体で回収し、廃棄してください。

※10月末までにチェックした名簿が全国事務局に届かなかった団体は、それ以降も順

次、更新を受け付けますが、12月末の有効期限終了までにお届けできない場合がありますので、ご了承ください。

---

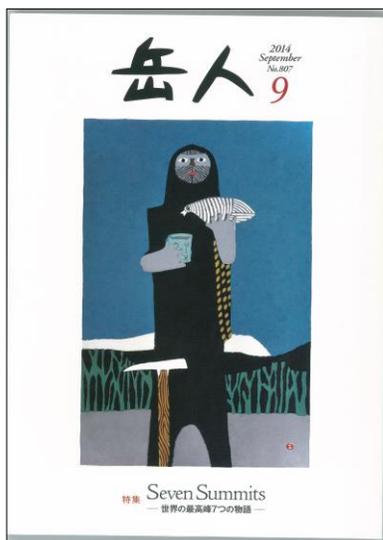
#### ▲△4：山岳雑誌「岳人」の経営が譲渡される 9月号から東京新聞→モンベル系企業に

---

山岳雑誌として長らく親しまれてきた「岳人」の経営が、8月12日に発売された9月号からアウトドアショップ「モンベルグループ」傘下の(株)ネイチュアエンタープライズに引き継がれました。

「岳人」は1947年に京都大学山岳部有志によって創刊され、1949年以降は中日新聞社が受け継ぎ、現在は東京新聞（中日新聞東京本社）が発行してきました。それから65年、東京新聞発行の最終刊となった8月号（第806号）には、「岳人アーカイブズ」と題して、「岳人」の歴史や、「岳人」が掲載してきた記事が紹介されています。

新生「岳人」は、「岳人」のタイトルを継承しつつ（注：東京新聞から無償で譲渡された）、大きさは変形B5版から普通のB5版へと横幅が小さくなり、価格も税込840円から734円に引き下げられました。今後の推移を注目していきたいものです。



新しい「岳人」の表紙



「岳人」8月号の表紙  
よく見ると、かつて発行された「岳人」の表紙が小さいチップでびっしり貼り付けられている